

JET からの手紙

青森からスタート

青森県観光国際戦略局誘客交流課 国際交流員
刘鲁钰（リュウ・ルウ）

1 本の電話

「青森県庁に派遣する予定ですが、いかがでしょうか」と在中国日本大使館から電話がかかってきた時、青森という地名が今まで聞いた日本のどの地名よりも、心を揺さぶりました。未知の土地での生活について、不安と期待が交錯していましたが、自分が好きな国際交流の仕事ができると考えると、ワクワクが止まりませんでした。

2022年7月、私は国境を越えて青森空港に降り立ちました。真夏日とはいえ、空港から出た瞬間に感じた優しい風はとても気持ちよかったことを今でも覚えています。この瞬間から、青森生活の幕が上がりました。



大連アカシア祭りに参加

私の主な仕事

青森県庁の観光部署に配属された私の主な業務は、中国国際交流員（CIR）として、国際交流・経済交流事業への貢献と異文化交流・多文化共生の推進をすることです。

自分にとって刺激溢れる仕事が多く、その中から具体的な取り組みを抜粋し、ご紹介したいと思います。

○国際交流・経済交流事業について

a) 翻訳・通訳業務

翻訳に関しては、礼状、招待状、案内状のほか、観光・物産パンフレット、公共施設の中国語表記、メールのやりとりなど、さまざまな文面の翻訳・校正を担当したことがあります。いずれも、原文の意味を損なわないことを第一にした上で、文言のわかりやすさと語感の美しさのバランスを重視し言葉を選びます。

通訳に関しては、知事表敬をはじめ、商談会、懇親会、インタビュー、来客のアテンドなどの場面で担当しています。これまで、海外に3回出張することがありましたが、事前の調整、現地担当者とのやりとりなど、自分の語学力が発揮される場面が多く、達成感が感じられる業務でもあります。



知事表敬の時の通訳風景

b) 観光資源の案内・体験業務

中華系の来訪者が青森に来る際には、青森県を案内する業務があります。四季折々の美しさがある青森県は、いつも来訪者を魅了します。また、観光資源のモニターで、外国人の視点から助言することもあります。これまで、印象に残った体験といえば、りんご狩りのほか、



久渡寺での山伏体験

350年の伝統を受け継ぐ「二唐刃物鍛造所」でのペーパーナイフ製作、久渡寺での山伏体験があります。

○異文化交流・多文化共生の推進事業について

a) 中国文化紹介便りの執筆

青森県庁にはCIRが5人いますが、2か月に1度、全員が3,000字程度の「国際交流員便り」を執筆し、共同で発行しています。テーマは任意ですが、私は毎回各時期に合った中国の面白そうなトピックを中心に扱います。

例えば、日本の流行語大賞の発表時期に合わせ、中国の新語・流行語を紹介したり、8月の青森ねぶた祭りに合わせ、中国で人気の祭りを紹介したりしています。また、日中両国のことわざの相違点といった日中対比の視点で執筆することもありました。

b) 学校訪問

小学校の児童に向け、中国を紹介する講座を開催しています。中国の地理、料理、お金などの基礎情報の



漢服を着ての授業風景

紹介のほか、一緒に中国のジェスチャーを学んだり、歌を聞いて踊ったり、ゲームで遊んだりしています。

最後にいつも質疑応答の時間を設けていますが、「刘先生、中国人は1人1頭パンダを飼っているの?」という可愛い質問は、未だに頭から離れません。

挑戦的な仕事：ライブ配信の出演

日本の航空会社が企画したライブ配信に、青森県内の各観光地を舞台に客室乗務員の方々と共に出演しました。初めてのライブ配信で不安でいっぱいでしたが、事前に観光地の情報をとことん調べ、また客室乗務員の方々のフォローもあったおかげで、トラブルなく実行でき、視

聴者数は延べ22万、「いいね!」数は延べ11万と大きな成果を残すことができました。

最後に

昨年の3月31日をもって、私はJETから卒業する運びとなりました。2年弱の青森生活は、楽しかったです。



これから、青森ねぶた祭りに参加微力ながら一市民として国際交流に貢献したいと考えています。

僭越ながら、この場を借りて青森県庁の職員の皆さん、特に深く関わった国際化グループの皆さん、JETプログラムの運営に関わるクレアの方々に心より感謝を申し上げます。



国際化グループの皆さんと一緒に

また、日本の各自治体で日中友好のために尽力している中国のCIRに、「仲間として頑張ってもらってよかった。これからも、応援しているよ」という言葉を以て、本稿を締めさせていただきます。

プロフィール



刘鲁钰 (リュウ・ルウ)

中国・武漢市出身。2021年6月北京第二外国语学院大学院日本語通訳コースを卒業後、北京日本文化センター（国際交流基金）にて

1年間勤務。書籍2冊の翻訳実績あり。日中友好に貢献するためJETプログラムに応募し、2022年7月来青。専門分野の知見を深め、特定分野のスペシャリストとして日中のビジネス活動に関わりたい。